



東 浩一（ひがしこういち）議員

一括質問

動画でチェック

小松市の農業、観光資源について



◆小松市が取り組む施策、農業、観光資源

Q CO₂排出ゼロへの取組。

A 削減目標は数値の見える化を図りたい。また国のV2Hの設置補助は機器に50%、工事費に100%の補助があり、この補助に乗せする補助制度を検討している。

Q 新公共交通の小松版Maasについて。

A デマンド型交通で予約を入れて、指定された時間に指定された場所へ送迎する松東地区乗合タクシーの予約方法も、電話による予約に加えアプリによる予約が可能になるように進めていく。

Q 空き家取壊し補助金30万円の見直しについて。

A 老朽で危険な空き家の解体を推進するため、近隣自治体の解体補助限度額なども参考に、今後検討していきたい。

Q 災害対策、対応に対する取組。

A 中山間地は浸水想定区域が示されておらず、令和5年は想定を見直し、かすみがわ 湊上川など11河川も対象のハザードマップを作成予定で、全世帯に周知を図っていく。

Q スマート化の支援について。

A JA小松市や民間企業の導入検証を通じて農業者の理解を図り、農業者がスムーズにICT機器を取り入れられるよう連携し取組を支援していきたい。

Q 農産物ブランド化、出口戦略。

A 人・環境・知見に着目し、ストーリーもブランド化することで、新たな消費者や新規就労者の獲得を、JA・生産者・県等と連携していきたい。

Q 2件の日本遺産について。

A 文化財保存活用長期計画策定のため、文化財の保存・保全を地域の方々とヒアリングを行っている。

Q 尾小屋鉱山資料館について。

A 県に資料館の再整備を要望しており、調整を進めている。

Q 大倉岳高原の通年活用と里山活性化について。

A 南加賀のウインタースポーツの拠点で大きなポテンシャルを秘めており、自然・文化・産業の保存、活用で価値を高めていきたい。



吉田 寛治（よしだかんじ）議員

一括質問

動画でチェック

新しい市民と行政との関係について



◆ボランティアと行政との関係について

Q これからは少子高齢化や異常気象が進むことが予想され行政もボランティアや民間の力がますます必要になってくる。防災士、保護司や民生委員の団体の負担は増えていく中、行政とボランティアや市民団体との新しい関係づくりが必要。

A 行政と相互に補い合うよきパートナーとして、日頃から対話を通じた合意づくりのプロセスを図っておくことが大切であり、そうしたことを通じて行政とボランティア等との連携、協働の形がよりよいものになっていくと考えている。

◆未来型図書館への取組について

Q 私が4年前に市議に立候補する時の大きな公約であった新しい図書館の建設が、宮橋市長のもと、実現に向かって市民参加型のつながるミーティングや市民の公開の

もとの基本構想策定委員会など多方面で準備が行われているのは大変感慨深いものがある。しかし、図書館建設への動きを知る市民が少ないのも事実。少しでも多くの市民に未来型図書館への取組について知ってもらうことが必要。

A これまでも対話とコミュニケーションを大切にしながらまちづくりを進めており、未来型図書館づくりは市民と一緒に取り組む市政の象徴、まちづくりの進め方のロールモデルになると考えている。そのためには、いかに対話のムーブメントを巻き起こしていくかが重要であると考えている。

今後市民一人一人が未来型図書館づくりを自分事として捉え、小松市の未来を語り合い、共に実現していくため、新たな対話と活動の場、(仮称)リビングラボを立ち上げ、開館後も市民と共につくる体制づくりに取り組む。



南藤 陽一(なんとう よういち)議員

一括質問

動画でチェック

コロナ禍からの回復に向けて



◆「地域協議会」の今後の在り方について

Q コロナ禍で停滞している校下単位の事業の再開や、伝統文化の継承などを後押しする補助メニューを創設してはどうか。

A 今年度、地域の伝統行事などに活用できる次世代育成事業を新設。地域を明るくにぎやかにする活動に活用いただきたい。

Q 月津校下と日末校下が連携して取得した自家用有償旅客運送に対し、力強い後押しをお願いしたいと考えるが。

A 現在構築中の小松版Maasにおいて、公共交通による移動が難しい地域では、地域協議会等が主体となった自家用有償旅客運送も重要な移動手段と考えており、交通空白地域解消のためにも支援してまいりたい。

Q 地域協議会の今後の推進策とあり方について、運営役員に対する報奨金制度を求めらる。

A 運営体制構築事業を活用したなど、効果的で持続可能な地域の運営体制の実現を目指したい。

◆観光・飲食業者に対する支援策について

Q 感染が増えると冷え込む、観光や飲食業の今後の消費喚起策をどのように考えているか。

A 本市宿泊割は、終了後、全国旅行支援の状況等を踏まえ検討。また、コロナの感染状況や物価高状況を踏まえ、プレミアム付商品券事業などを検討したい。

Q 経営基盤の強化を図るコンサルティング費用や、国の補助金申請の代行費用を助成する制度を設けてはどうか。

A 国、県、小松商工会議所において相談所の設置等がされており、今後も関係機関と連携し必要に応じ支援を検討していく。

Q 粟津温泉交流広場の活用方法など、粟津温泉のにぎわい創出に向けた取組について本市の見解を。

A 地元開催の集客イベントへの協力、魅力発信や様々な場面でのPRをしており、3月から実施のシェアサイクルのポートを粟津地区にも設置する。地域の方々と連携し地域づくりのお手伝い、プロモーション強化に努めたい。



高野 哲郎(たかの てつろう)議員

一括質問

動画でチェック

「東京で子供歌舞伎を!!」



◆民間企業との協定について

Q 小松市が民間企業や団体と協定を結ぶ最大のメリットは。協定を結ぶ流れと締結の基準は。

A 行政課題の解決や効果的なまちづくりの実現がメリットであり、本市の課題解決や市民サービス向上に資する事業に対し、双方の合意のもと、協議を進めることとなる。

Q どのような種類の協定締結の実績があるか。協定を結んだことによりどのような効果があったか。

A 包括連携協定13件、事業連携協定は、令和3年度以降20件等。

成果例は、損害保険会社からの令和4年8月大雨での損害状況についての調査結果提供である。

Q 連携はさらに進んでいくと考えるが、今後の進め方は。

A 今後とも公民連携により、市民サービスの向上やまちづくりの高度化について取り組んでいく。

◆新幹線小松駅開業へ向けた首都圏での活動について

Q 開業に向け、首都圏での「小松」の露出が最も重要である。これまでの首都圏での活動は。

A 市独自や県など広域連携による様々なプロモーションイベントを実施してきた。

Q 「小松」のPRとし、「子供歌舞伎」は最もシンボリックである。県と連携し東京で子供歌舞伎を披露できれば、大きなPRとなる。今後の市の取組は。

A 南加賀全体で各地域の特色を生かしたプロモーションを県と共に考えていく。東京での子供歌舞伎上演は、今後、関係者と共に検討を重ねていく。



新幹線効果を小松に



橋本 米子(はしもとよねこ)議員

一括質問

物価高騰から市民の暮らしを守る対策について



動画でチェック

◆国民健康保険税の均等割を18才まで拡大を

Q 令和3年度の18歳未満の子どもの減免実績について。

A 930世帯、1,248人で減免総額は1,697万1,300円。

Q 物価高は2年前よりもひどくなっている。子育て支援として市独自に18才まで拡大を求めたい。

A 今年度は学校給食費無償化の拡大や紙おむつ定期便など手厚く支援しており、子供たちの輝く未来都市こまつを目指していく。

◆小学校の学校給食無償化の実施について

Q 長年の学校給食無償化の要望が中学生で実現された。市長の思いは。

A 社会全体で子供たちの成長を支える環境をつくることが出てきたことは意義深く素直に



小学生にも学校給食無償化を

喜びたい。

Q 子育て支援として小学生にも学校給食無償化を広げて頂きたい。

A 小学校への拡大は恒久的な政策として必ず実施するという強い信念をもって検討していきたい。

◆消費税緊急5%減税が効果的だ

Q 全ての物価を引き下げするために国に消費税減税を求めて頂きたい。

A 物価高騰対策として国では直接的な支援や持続可能な経済活動等の実現に取り組んでおり、市でも連携し適切に対応したい。

◆加齢性難聴者の補聴器購入の助成制度の創設について

Q 補聴器は高齢化社会の必需品であり、助成制度が必要と思

A 補助制度の創設については従前より国へ要望書が提出されており、国の制度として確立されることも注視しながら検討したい。



木下 裕介(きのしたひろゆき)議員

一問一答

助産師にも分娩手当を！



動画でチェック

◆市民病院の特殊勤務手当

Q 結核患者と接する看護師には特殊勤務手当が支給されるが、看護師以外には支給されない。結核は空気感染するため、支給対象を結核病棟勤務の全スタッフに拡大してどうか。

A 人事院の規則を踏まえ、結核病棟勤務の薬剤師、理学療法士、言語聴覚士、管理栄養士、診療放射線技師、臨床検査技師等にも範囲を拡大し、支給する方法で調整したい。

Q 分娩手当は医師のみに支給されている。助産師にも支給を求めろ。

A 条例案件であり、新年度から実施できるよう調整していきたい。
Q オンコール手当は1回500円。待機の精神的負担も大きい為、支給額の増額を。

A 今後も現状のまま支給したい。

◆特別支援教育支援員について

Q 実態調査の結果、小松地区の配置が適正だとした回答が38%にとどまっていることが分かった。配置の現状とその要因は。

A 配置状況は全体の91%。要因は障害への理解や専門性、児童らとの信頼関係など多様な業務内容を満たせないため。

Q 今後の対応は。

A 募集の継続と市教育委員会のネットワークを活用し、100%の配置となるよう努力する。

◆空とこども絵本館元顧問松居直氏について

Q 11月にご逝去された。これまでの市への功績をたたえて、顕彰してどうか。

A 寄贈頂いた資料は大変貴重で、今後も市民団体と共に松居氏の功績を顕彰していきたい。

◆子宮頸がんワクチン

Q 来年度から9価ワクチンが定期接種化される。接種1回目

A が2価または4価で終了している方への対応は。

A 交互接種は医師と相談した上であれば実施可能と聞いている。

Q 子宮頸がんは性的接触により感染することから、男性にも接種費用助成を求めろ。

A ワクチンの有効性や必要性についての情報を収集し、国の動きなどを注視していきたい。



新田 寛之 につたひろき議員

一問一答

前川から日本海への排水路



動画でチェック

◆草野町地内にある農業用排水ポンプを活用

Q ポンプの能力や排水ルートについて。

A ポンプ能力は毎秒0・14m³で排水は直接日本海へ流れる。

Q 小松市内で、梯川以外で唯一日本海へ直接排水できるルートである。それを活用し、大雨の際の非常用排水ルートとして活用できないか。

A ポンプは当初、県営圃場整備事業において用水ポンプとして整備された。その後、地元の要望を受けて大雨時に農地の灌水被害を軽減することを目的として、日本海へ直接排水できるよう改造したものの。しかし、排水能力は毎秒0・14トンで前川排水機場の毎秒62トンと比べかなり能力に差があり効果は限定的と考えられる。



草野町地内から日本海に出ている排水口

日本海

梯川
前川

草野町地内のポンプ小屋

NTTInfraNet PASCO GeoTechnologies

前川左岸地区の排水の流れ(青色線)と、草野町地内にある農業用ポンプの排水ルート(赤色線)

◆学校教育での食育について

Q 子どもたちに食育をどのように行っているのか。

A 栄養教諭等による食に関する指導や外国の郷土料理を提供した食育など。

Q 学校での体験農業は。

A 特に5年生の社会科で、米作り、野菜作りについて学んでいる。

Q 体験を受けての授業や取組は。

A 学習成果を発表する場を設けるなどし、農業体験を重要な食育の機会として位置づけている。

◆給食の食材について

Q 米価が上がらない今、米飯割合について、他市の状況と本市の状況は。

A 各市により様々。本市は、2週間米飯7回、パン食3回。最近オーガニック給食が増えている。本市でもすべきだ。

Q 安心安全で新鮮な地産地消を大事に、市内・県内産の食材を使用。オーガニック食材について学べる機会を考えていきたい。

◆黙食について

Q 給食時の会話を可能とする通知が文科省から出されたが本市の対応は。

吉村 範明(よしむらのりあき)議員

一問一答

学校給食についてと新幹線開業後の観光戦略と交通アクセスについて



動画でチェック

Q 今後感染予防に努めながら、児童生徒の思いに配慮した給食の実施を学校に周知する。

◆本市の観光需要と動向について

Q 本市の観光の動向は。また宿泊旅行者はどの方面からか。

A 令和元年337万人、令和3年235万人。富山・福井、関西圏、中京圏からが半分以上を占める。

◆観光戦略について

Q 開業後の集客戦略は。

A 国内外、世界のまちとつながり新たな交流がたくさん生まれるよう、また交流拡大のチャンスに向けブランド力を高めるために新交流ビジョンを策定中である。

◆開業後の交通アクセスについて

Q 旅行者の本市への交通手段は。

A 関西・中京方面からは、自家用車、観光バス、特急列車が主。敦賀開業後は関西・中京からは乗換えになり不便だ。今後の交通網をどう考える。

A 在来線と新幹線のスムーズな接続や航空機の新規路線の開拓について、国や県と連携して取り組んでいきたい。